

## 業界から一言 製造業

食料品製造／麺類製造は、納品先の小売店が不振であり、売上高が減少。加えて、燃料費などの製造コスト増、包装資材等の高騰が経営を圧迫。ワインは、新酒ワイン商談会が好評で、商談や契約があり、今後の売上に期待。

繊維・同製品／織物は、寒波の影響でマフラー、スカーフ等が好調であるが、生産が間に合わないため、微増程度。既製服製造は、寒波のため発注は増加したが、単価が不変のため、人件費増で利益は少ない。窯業土石製品／生コンクリートの出荷量は、天候に恵まれて前年比微増。公共物件の減少が大きく、民間物件の増加分では補いきれない。砂利販売は、年末に道路関係工事が増加し、売上高が増加したが、特定砂利採取事業の高い原石代が収益を圧迫し、事業継続が困難な状況。

鉄鋼機械金属／機械製造は、企業間格差が拡大しており、設備投資により大幅増産を行

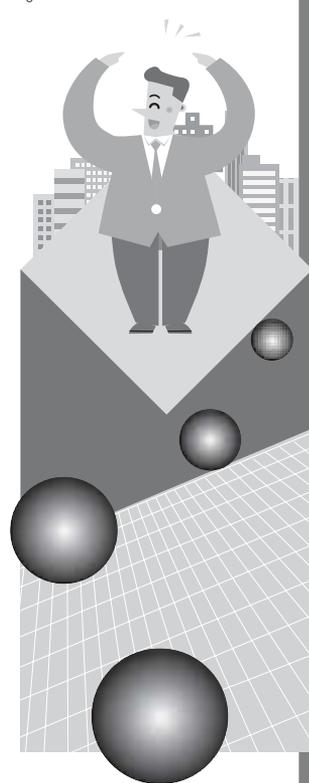
っている企業があるが、操業度を上げて対応している企業は、生産は微増程度で人件費増により、収益幅が少ない状況。めつき業は、受注は微増であるが、材料価格の高騰で収益は悪化。

宝飾品／宝飾品は、地金価格の上昇が続いており、地金の仕入金額の増加が資金繰りを圧迫。企画力等の差による企業間格差がますます拡大。

## 非製造業

小売業／水産物は、大型店、スーパーの正月営業の影響で、

年末の売上高が減少。青果は、葉物野菜を中心にした値上がりにより、消費者が買い控えが見られる。食肉小売は、高値品の動きがあったが、仕入コストが高値安定のままで収益は悪化。家電は、大型薄型テレビ、石油ファンヒータが売上を牽引したが、大型店との安値競争により収益が悪化している。また、企業間格差が拡大



# 景況情報

山梨県中小企業団体中央会  
情報連絡員報告  
(平成17年12月分)

調査対象の50業界のDI値は、製造業は、「業界の景況」、「収益状況」はやや悪化、「売上高」は横ばい。非製造業は、「業界の景況」、「売上高」は回復、「収益状況」はやや回復した。全体としては、「業界の景況」、「収益状況」はやや回復、「売上高」は回復した。

依然として水面下にはあるが、12月に関しては、繊維製造、防寒関連商品の小売が好調であり、記録的な寒波が全体を押し上げたが、依然として、原油高による燃料及び石油関連製品の高騰の影響を受けている業種が多い。

傾向。ガソリンスタンドは、ガソリン、軽油販売価格は横ばいであったが、灯油が1ℓあたり1円程度値上がりした。自動車販売は、一部の高級車の販売が好調であるが、全体としては販売台数の減少により収益が悪化。

## サービス業／不動産

業は、県内の地価は下げ止まりつつあるが、首都圏との格差が拡大しており、地価上昇については先行き不透明。ホテル・旅館は、首都圏の好況による個人客の増加により、年末年始は前年並みを確保したが、安値志向の競争の限界、設備投資資金の捻出が困難などのマイ

ナス要素がある。自動車整備は、小型車・軽自動車の車検が多く、整備料金の低下に伴い、収益が悪化しているのに加え、ディーラーなどとの競争がさらに激化。

## 建設業

建設業／建設業は、公共事業削減の影響が大きく、県内では、マンション以外の民間物件の動きが少ない。鉄構工事は、県内物件が少なく、首都圏の物件に頼っているが、春以降の予測がつかない。鋼材の流通は夏以降安定しており、収益状況は若干改善された。管工事は、公共事業の減少により、売上高が減少し、収益状況が悪化。

## 運輸業

運輸業／タクシー業界は、依然業況は良くないが、若干上昇傾向にある。バス業界は、依然として先行き不透明な状況。中小のトラック業者は、12月は繁忙期であり、前年に比べても売上高は増加したが、燃料コスト増分を運賃へ転嫁できないため、経営維持が困難な状況。